

外国語活動指導の参考例

第5学年 外国語活動指導案

平成21年○月○日 (○) ○校時
○組 男子○名 女子○名 計○名
指導者 ○ ○ ○ ○

1 単元「数で遊ぼう」

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

本学級の児童は、5年生になって「英語ノート」を使った学習を始めている。この英語ノートを使った授業を通して、あいさつや自己紹介の表現方法を知り、簡単な語いを使ってそれらに慣れ親しんできている。そして、ゲームやインタビュー活動を楽しみながらALTやAEAと英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする姿が見られるようになってきている。さらには、ALT や外国の方とも意識をせずに英語を使ってコミュニケーションを図りたいという思いや願いも高まってきている。

本単元では、これからの活動の中で繰り返し使われる「数」の入門期として1～20までの数を取り上げる。ただ単に数を数えたり、記憶させたりするのではなく、歌や今まで体験した事のあるようなゲームを通して、その中で必然的に出てきた数に触れながら少しずつ使える範囲を広げさせるようにする。

さらに、本単元では、言葉だけではなく、指を使った数え方や「正」の漢字を使った数の記録の仕方、世界の数を使ったゲームにも触れさせ、日本の遊びとの違いや面白さに気付かせるようにしたい。また、グループでのゲームを多く取り入れることでコミュニケーションを図る楽しさを味わわせたい。

このような外国語活動を通して、いろいろな数の表現に慣れ親しむとともにALTや外国の人とも楽しく英語を聞いたり話したりして、次の学習へ意欲をもって取り組むことができると考える。

(2) 児童の実態 (アンケート項目の例)

対象者 ○組 児童○名 数値は延べ人数

※ 結果は主なもののみ表示

ア 外国語活動は好きですか。

- ・好き ・どちらかといえば好き
- ・どちらかといえばきらい ・きらい

【好きな理由】

- ・英語を使ってゲームをすることが好き
- ・外国の人と英語で話をしたり遊んだりすることが好き
- ・英語を使って会話をすることが好き

【きらいな理由】

- ・うまく話せないから

新学習指導要領により、平成23年度から外国語活動が必修化される。外国語活動の目標をコミュニケーション能力の素地の育成とし、中学校外国語科との連携を図った。外国語活動においては、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に重点が置かれている。この目標は、中学校段階の文法等を単に前倒しするのではなく、児童が、体験的に「聞くこと」や「話すこと」を通して、外国語の音声や基本的な表現に慣れしむことである。コミュニケーション能力の素地の育成を目指した外国語活動の在り方について、指導のモデル例として、指導案の形式で提示したい。

各学校の外国語活動における児童の取組状況の概要について述べている。

語いや基本的な表現などの取扱いについては、機械的に繰り返し練習させる方法に偏ることがないように留意し、児童が興味・関心を高めながら、語いや基本的な表現に慣れ親しませるよう留意している。

活動内容として、言語や文化に関すること、コミュニケーションに関することについて述べている。

本単元の授業を展開することで、児童の外国語活動における目指すべき姿について思いを述べている。

学級の児童の実態や外国語活動の取組状況について記述する。また、アンケートを実施する際には、外国語活動の学習活動との関連を考慮した質問項目となるように努める。

傾向ができるように、質問へ4段階で回答するようにしている。

理由については、日頃の活動の内容にそった項目を設定することで児童が回答しやすいよう配慮している。

「きらい」と回答した児童がいる場合は、その理由を把握する。

・単語を覚えるのが難しいから
イ どんな活動が好きですか。

・ゲーム活動 ・クイズ ・ALTの話を書く ・チャンツ
・歌 ・読み聞かせ

ウ 次の数を英語で言えますか。

・1～10 ・11～20 ・20～100

こられらの結果より本学級の児童は、外国語活動におおむね好意的であることが分かる。その理由として、これまでの外国語活動で楽しく英語に慣れ親しむゲームやコミュニケーションを図るための活動をしてきているからであると思われる。その意欲を継続させるために本単元でもゲーム的活動を取り入れる場面を多く設定していきたい。

外国語活動がどちらかという嫌いだと答えた児童が5名いたが、うまく話したり、単語を覚えたりしないといけないと感じているようである。ゲームや活動の中でコミュニケーションを図ることの楽しさを味わわせたい。

「数」に関する英語は、1から10までは、全員が慣れ親しんでいるのに対して11～20になると4割の児童が難しいと感じるようだ。さらに20以上になると8割の児童が難しいと感じている。

そこで、本単元では、歌やゲーム等により、1～20までの数に慣れ親しませ、次時からのスキット作りに積極的に取り組めるようにしたい。

(3) 指導上の留意点

指導にあたっては、次のことを留意したい。

第1時では、主に11～20までの数に慣れ親しむことを目標としている。そこで、「数」を聞いたり、言ったりする必要性のある場面を設定し、「How many ～？」を意識させるようにする。また、電子黒板を活用して、発音を繰り返すとともに音声だけでなく視覚的にもとらえさせ、動作化をしながら楽しく「数」に触れさせるようにしていきたい。

第2時では、電子黒板を活用して英語以外の言語の「数」の数え方にも触れさせるようにする。ドットと数字のたくさん書いてあるプリントを準備し、数字を聞いて絵を描いていくゲームや数字を使ったビンゴなどのゲームを取り入れることで英語に対して苦手意識をもっている児童もスムーズに活動に入れるものとする。また、「How many (物の名前) do you want?」「I want (数) (物の名前), please.」のやりとりも繰り返しチャンツで行うことで慣れさせておくようにする。

第3時では、フルーツショップという場面設定を行い、店員とお客の立場になり、「いくつ必要ですか。」や「いくつください。」のやりとりを体験させてみる。どちらの立場も体験できるように交代でスキットを行わせる。本単元のまとめとなる時間であることから、店員とお客のやりとりを通して、あいさつやアイコンタクト、表情でのコミュニケーションを図る楽しさを十分に味わわ

好きな活動については、日頃の活動の内容にそった項目を設定し、児童の興味・関心を探るようにする。

本単元に関係する「数」についての実態を把握するための質問項目を設定している。

英語に慣れ親しむ活動やコミュニケーション活動を多く設定することを通して、児童の意欲を高めていく必要性について述べている。また、本単元の授業を展開するに当たって、指導の方向性や活動の在り方についても述べている。

「きれい」とした回答した5人の児童については、その理由を把握し、今後の指導の方向性について述べている。

これまでも「数」を取り入れた活動を行なっている。その活動を踏まえて、本調査から、1～10までの「数」の取り扱いと11～20、20～100までの「数」の取扱いを段階的に活動を取り入れてきたことを踏まえている。本単元において、再度、「数」を表す表現について児童に想起させるために授業設計を行なう必要性について述べている。

指導上の留意点については、具体的にどのような授業を展開するか、手立て等を明確にしながら述べるよう努める。

第1時においては、目標を11～20までの「数」に慣れ親しむこととし、電子黒板を活用し、動作化を図りながら楽しく「数」に触れさせる手立てを講じることに述べている。

第2時においては、ワークシートを活用した、ゲーム等を取り入れることで、苦手意識をもつ児童への支援について述べている。また、リズムチャンツの活用も表現に慣れ親しませる手立てとして取り上げている。

第3時においては、買い物をするという場面を設定し、コミュニケーションを図る楽しさを体験させることを手立てとして取り上げている。コミュニケーションを図る際、語いや基本表現のやり取りだけでなく、表情やジェスチャーなども大切な要素として取り上げることに述べている。

せるようにしていきたい。

3 単元の目標

- (1) 世界の数の数え方や遊びに興味をもつ。
- (2) 積極的に「数」を使ったゲームをしようとする。
- (3) 1～20までの「数」を使っているいろいろなゲームをする。

4 単元の指導計画（全3時間）

時間	ねらい	主な活動	語い・表現等
1	How many?の表現に触れ、1～20までの数に慣れ親しむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ How many ～? の表現を知り、ゲームなどを通して試してみる。 ・ 数を使った歌やゲームをする。(電子黒板の活用) 	How many ～? One, two, three, four, five, six, seven, eight, nine, ten, eleven..., twenty. Rock, scissors, paper. One, two, three
2	世界の様々な数え方やジェスチャーに触れ、英語の1～20までの数に慣れ親しむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の数の数え方を知る。(電子黒板の活用) ・ 数を使ったゲームをする。(線結び、数字ピラミッド) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ How many ...do you want? ・ I want ～. (数)(物の名前)
3	買い物場面を通して数を尋ねたり、数を答えたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 店員と客になって、「いくつ必要ですか?」「何個です。」のやりとりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Here you are. ・ Thank you. ・ You're welcome.

5 本時（1／3）

(1) 目標

“How many.....?”の表現に触れたり、1～20までの数に慣れ親しんだりしながら、友だちと歌やゲームを楽しむ。

(2) 本時の展開に当たって

ア 「意欲をもつ」過程では、あいさつを全体でした後、個人にも問いかけるようにする。また、英語の歌を歌うことで和やかな雰囲気を出すようにする。

イ 「つかむ」過程では、数を使ったジャンケンゲームを通して、本時のめあてをつかませるとともに活動への意欲を高めるようにする。1～10までの数を使ったペアでのジャンケンゲームでは、より多くの友だちとかわることやあいさつなどにも意識させて活動を行わせたい。

次にグループでジャンケンゲームをすることで10を超える数が出てきて困る状況を設定し、11～20までの数に触れる「アクティビティ①」へもっていくようにする。

ウ 「挑戦する」過程では、「アクティビティ①」として11以上の数に慣れ親しませるためにチャンツをしたり、歌を歌ったりして楽しく活動できるようにする。「アクティビティ②」では、11～20までの数を使ったグループゲームを通してより多くの友だちと関わることやあいさつなどにも意識させて活動を行わせたい。

エ 「振り返る」過程では、本時の活動を振り返り、ねらいが達成できたかを確かめるとともに、友だちとの活動や慣れ親しんだ表現や楽しかったことなどを発表させることでまとめを行う

単元の目標については、外国語活動の目標にそって述べている。

- (1) 言語や文化についての体験的な理解。
- (2) 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成。
- (3) 外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ。

指導計画については、ねらい、主な活動、語い・表現等について述べている。単元を通して、語いや表現を繰り返し取り扱うように計画を立てるよう考慮している。

主な活動においては、児童の発達の段階や興味・関心に応じた活動を設定している。

語い・表現等においては、「数」やHow many...do you want?, I want.....などの表現と、児童に身近なものを語いとして取り上げるようにしている。

本時の目標については、「数」に関する語い・表現へ慣れ親しむことや、ゲームなどを通してコミュニケーションを図る楽しさを体験できるような目標として述べている。

「意欲をもつ過程」では、歌などを取り入れ、子どもの気持ちを和らげるよう配慮している。また、歌を導入する際は、語いや表現が繰り返される歌詞や体を動かしながら楽しんで歌うことができるような歌を選曲する必要がある。

「つかむ過程」では、めあてをつかませる際、児童の意欲を高めることが大切であると述べている。ジャンケンゲームを取り入れることで、児童の意欲を高め、めあてをつかませ、全員参加の活動を行うよう動機付けを図っている。

「挑戦する過程」においては、Activity①を語いや表現に慣れ親しませる活動として設定し、Activity②を児童が慣れ親しんだ語いや表現を活用して相互にかかわる活動を設定することについて述べている。

「振り返る過程」においては、学習のねらいを達成したか、ゴールに到達したかなどを確かめるとともに、外国語活動の体験を通して児童の感情を互いに共有させ合うことについて述べている。

ようにする。

(3) 実際

過程	時間	主な活動内容	教師の具体的な働きかけ
意欲をもつ	4	1 はじめのあいさつをする。 I'm fine. And you? 2 「How are you?」を歌い楽しい雰囲気をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 英語で元気よくあいさつさせる。 「How are you?」の歌を歌う際、動作をつけることで場を楽しく、明るい雰囲気をつくる。
つかむ	18	3 今日のめあてをつかむ。 (1) ジャンケンゲームのルールを知る。 (2) ペアでスキットを行なう。 Hello, nice to meet you. Rock, scissors, paper, How many fingers? Bye. see you. (3) グループでジャンケンゲームを行う。 ・数が多くなるとたし算が難しいなあ。 ・10をこえる数だとすぐに、英語が出てこないなあ。 (4) 今日のめあてを確認する。 英語で数を聞いたり、友達に伝えたりしよう。	<ul style="list-style-type: none"> 友だちとゲームをする際には、あいさつをしっかりする。目と目を見て行うなど告げておく。 ゲームの前に電子黒板を使って正しいジャンケンの発音のチャンツも行う。 たくさんの友だちと交流できた児童を称賛する。 うまくいわずに困っている児童にどのような所が困ったか答えさせる。 <p>○ できるだけ児童の言葉でめあてをつかませ、確認させる。</p>
挑戦する	18	4 Activity①を行う。 (1) 11～20までの数でチャンツをする。 (2) ラインゲームをする。 (3) Twenty steps を歌う 5 Activity②を行う。 ・4人グループで「How many fingers?」に挑戦する。 Hello, nice to meet you. How many fingers? (全員で数を確認する)	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板を活用して発音を確かめる。 聞き取り中心のチャンツから始めるようにする。 ボランティアを募り、ゲームのルールを説明する。 振り付けをしながら歌ったり、スピードを速くして歌ったりして変化をもたせる。 速く答えることを目的にしないことを強調しておく。 あいさつや表情を意識してゲームができるようにする。 席を移動して4人グループを作らせて、協力して数を数えるように声をかける。
振り返り	5	6 今日の活動を振り返る。 ○○さんが、元気に発表していたよ。友だちと協力してできて楽しかったよ。 7 終わりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> 楽しかったことや、表現に慣れ親しんだことなど本時の感想を交流させることで、これからの外国語活動への意欲につなげるようにする。 <p>What did you do? What was fun? Let's look back.</p> <ul style="list-style-type: none"> 次時の活動に触れて終わる。 Tomorrow(Next), we will do ~.

英語であいさつし、児童にこれから外国語活動が始まることを意識させ、歌を取り入れることで楽しく明るい雰囲気をつくることに留意している。

めあてを確認する際、児童の興味・関心を高め、全員が参加できるようなゲーム等を通して、活動への意欲化を図ることについて述べている。また、ゲームを行う際、語いや表現を楽しく繰り返し言わせることができるよう留意する必要がある。

児童の活動の際、教師は、ほめたり、励ましたりするなどして積極的にかかわりをもつことについて述べている。その際、Good job.やVery good.などの英語を使うように努めることが大切である。

活動を通して課題になったことを学級全員で共有し、一緒に課題解決に取り組んでいくことへの動機づけを図ることについて述べている。

ゲームに必要な表現は、11～20までの「数」であり、語いを繰り返し言わせ、慣れ親しませるためにラインゲームを取り入れることについて述べている。

児童が慣れ親しむことができた語いや表現を使い、ゲームを楽しむことについて述べている。グループごとに座席を移動させることで、児童相互が多くなかかわりをもつことができるように工夫している。

学習の振り返りでは、ねらいを達成したかを確認したり、本時の活動自体を児童がどう感じたかなど、感情の共有化を図ったりすることについて述べている。次時の活動へ意欲を引き出すよう留意する必要がある。

児童が相互にコミュニケーション活動自体に積極的に取り組むことについて、教師による行動観察や児童の活動の見取りを通して評価を行なうことについて述べている。評価については、表現の定着やスキルの評価にならないよう留意する必要がある。

(4) 評価

- 20までの数の表現を使って、たくさんの友達とコミュニケーションを楽しもうとしていたか。

平成21年度移動講座「日置市立伊集院小学校の実践例」を基に作成

参考文献：文部科学省「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」平成20年8月

文部科学省「英語ノート1 指導資料」平成21年3月